

そもそも 70 周年



住友建機(株) 技術本部 技術管理部 石倉 武久

この度、創立 70 周年を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げますとともに今後の貴協会の益々のご発展をお祈り申し上げます。

また今年の 6 月 12 日に開催されました 70 周年記念式典に奇しくも会社代表代理として参加し表彰頂きました上に、今回本執筆の依頼を頂いたことを大変名誉に有難くそして感謝しております。

1. そもそも

住友建機としては、現在の親会社である住友重機械工業の 1 事業部であったころから協会に加入し昭和 61 年に住友建機として独立し現在に至っております。ただ建機事業としては昭和 43 年設立のため 70 周年？となり、よく調べると住友重機械の他の事業部が協会の設立当初から加入していたことがわかりました。そしてその後、建機事業部も加入し、住友建機となったからは住友重機械を継承した形で引き告いだため、協会の 70 周年記念を頂いたことがわかりました。

2. 私の関わり

そして肝心の私の関わりは、昭和 61 年に名古屋から東京に異動となり、その 2 年後の昭和 63 年に協会の委員会に参加していたことが紐解くとわかりました。委員会としては「軟弱地盤委員会」ですが、現在は無くなっていて、今ではその活動内容については、私自身の記憶も定かではありません。

3. 活動開始

そして、はっきりと記憶に残っている活動としては、竹中工務店の宮口委員長が平成 10 年に立ち上げられた「建築生産機械技術委員会」で、その内の「移動式クレーン分科会」に参加したことです。本委員会は「荷役機械技術委員会」と「建築工事用機械技術委員会」

が合併し、委員会の立上げと同時に他の分科会「固定式クレーン分科会」「高所作業車分科会」と共に新たに設立されました。委員としては、各メーカーの他、各ゼネコンの方、リース業者の方と多種多様の方々が参加され、委員長の尽力もあり、とても活発な活動をされた記憶があります。活動成果としては平成 14 年発行の「移動式クレーン プランニング百科」で、本冊子は、単に各機械の説明だけでなく、建築工法の簡単な説明も掲載し、施工現場の工事の流れに沿って具体的に解説したメーカー・施工側の両者の方が読んで理解しやすい内容となっています。

その他、現場見学で記憶に残っている所は「淡路島の北淡震災記念公園の野島断層保存ゾーン (H11)」、「さいたま新都心の関東地方整備局一号館の屋上ヘリポート (H12)」、「汐留日本テレビ本社中のスタジオ (H15)」など挙げればきりが無いくらい多種多様な現場に連れて頂きました。通常、ダム等の公共事業の土木現場とは違い、我々が伺った現場は、ほとんどが建築現場であり見学者の対応に慣れておられなかったことを思うと、受け入れて頂いた担当の方も大変だったであろうと大変感謝しております。

4. 本格活動

私としては、本委員会では、初めに「移動式クレーン分科会」の分委会長を平成 12 年に拝命し、さきほどのプランニング百科の作成を途中から引き継いで発行まで活動しました。本冊子に関わって頂いた方もメーカー：9 社、ゼネコンの方：9 社、リース業者の方：4 社と活動期間は、3 年を要し延べ人数で言えば、31 名と大変な大所帯で活動していたことを記憶しております。

また、平成 25 年からは国土交通省の依頼により、油圧ショベル等で先に施行された「燃費基準達成建設機械認定制度」に新たに「ホイールクレーン (ラフテレーンクレーン)」を追加し「作業燃料消費量試験方

法 (JCMASH023)」を策定しました。策定の初めは、本機械の燃費試験方法を検討し、それに基づき各社の実機を測定し本試験法案を施工技術総合研究所とともに策定しました。それと各クラス毎の「作業燃費基準値」を稼働機の実データを基に各作業の割合を推定して時間当たりの燃費基準値を設定しました。その後「地球温暖化分科会」で審議頂き、正式発行の運びとなりました。各社の実機での燃費測定時は、各社の試験場にお邪魔し、立ち会えたことでより本試験方法の認識が深まったことを記憶しております。

5. 新たな活動

平成 15 年よりは、本委員会の委員長を清水建設の方から引き継ぎ、現在に至っておりますが、委員会の活動としては、私の力不足により、最低限の活動となっており、前委員長の方々には大変申し訳なく思っております。また他の活動としては、「機関誌編集委員会」に平成 19 年から参加し、今に至っております。

6. その他の活動

上記の委員会活動の他に協会の直接的な活動ではあ

りませんが協会から依頼を受けた事では、TV の特別番組に参画したことです。くわしい番組名はふせませんが、建設機械のオペレータの方がその腕を競う内容で、建設機械は 3 種類あり、私はラフテレーンクレーンを担当しました。内容は「電流イライラ棒ゲーム」で、狭いコースに荷をつってコースの柵に荷が触れると減点（時間加算）されるタイムレースです。このコースと障害物を番組ディレクターと考え、試作コースでのテストと見直しを経て本番コースを完成させました。この企画から本番収録撮りまで関わり全期間としては 3 ヶ月くらいありました。本番は 3 日間で 1 日テストと 2 日間の本番撮りで 3 日目本番では、現場にタレントが来て実機の競技を実際に観ながら解説する内容でした。しかし、TV 上映を見てびっくり、放映されたのは 2 日目の本番撮りのみ、3 日目の本番は全カット。ただ、3 日目のタレントの出演部分と 2 日目の本番撮りを上手く編集し、あたかも同時進行しているかのように作成されていたことに大変感心しました。

最後に、こんなに長く協会の活動に参加できたことに感謝し、また沢山の方々にも助けて頂き続けて来られましたことをこの場をお借りして深くお礼を申し上げます。

JCMA